

室蘭工業大学将棋部
二〇二五年度春季部誌

捲土重来

目次

部長挨拶	3P
大会結果報告	5P
自戦記	8P
詰将棋	23P
コラム	25P
詰将棋解答	30P
編集後記	32P

部長挨拶

部長挨拶

システム理化学科 2年 中原勇大

第57期部長を務めることになりました中原勇大です。よろしくお願いします。

今年は新入部員が多く、1年生以外に2、3年生も増えて部室が埋まる頻度が高くなっています。去年の集まりの悪さが多少なりとも改善されることを期待しています。せっかくの新入部員を逃がさないためにもできるだけ部室を開けるようにすることが今の私の仕事となっています。

さて、今大会では団体戦で全勝者が二名にも関わらずなぜか4位となり、個人戦では紺野が4位、三浦と中原はベスト32、金澤と佐藤は初戦敗退となりました。全勝者である三浦、紺野には申し訳ないと思いつつ、私の申し訳なさなどお構いなしに私の棋力は初心者レベルまで低下の一途をたどっております。誰か私を救ってください。

1年生に関しては中村が対北海学園大学で勝ち、チームの勝利に貢献しました。1年生たちの今後の活躍に期待しています。

今、一番恐ろしいことは何かと言えば前述した全勝者二名がどちらとも4年生であり、大会に出場することができなくなってしまうことです。この二人がいなくなったとき、この部は大幅な弱体化の未来しかありません。押しつけられただけではありませんが私は一応部長なので胸を張って将棋部を任せろと言いたいところではあります。今大会で頑張っても多少結果を残してそう言いたかったのですが大ボカ&序盤で形勢を悪くする始末。いわゆるネタ枠としての人生を歩み始めているような気がします。

初対局で前部長三浦に一発入れた1年生の頃の私はどこへやら。己の弱さを嘔みしめつつ地道に将棋を学び直し、部に貢献できるよう頑張りたいと思います。

多く棋力向上の機会をつくり、部活動を活発にできるよう尽力したいと思います。これからもよろしくお願いします。

大会结果報告

2025年度 春季大会団体戦結果

5月4日 於：中央区民センター

	北大	樽商	北海	室工	酪農	旭医	釧路	勝点	勝数	順位
北海道大学		3	4	3	5	5	5	6	25	1
小樽商科大学	2		2	3	5	5	4	4	21	2
北海学園大学	1	3		2	3	5	5	4	19	3
室蘭工業大学	2	2	3		4	5	3	4	19	4
酪農学園大学	0	0	2	1		4	4	2	11	5
旭川医科大学	0	0	0	0	1		1.5	0	2.5	7
釧路公立大学	0	1	0	2	1	3.5		1	7.5	6

優勝：北海道大学

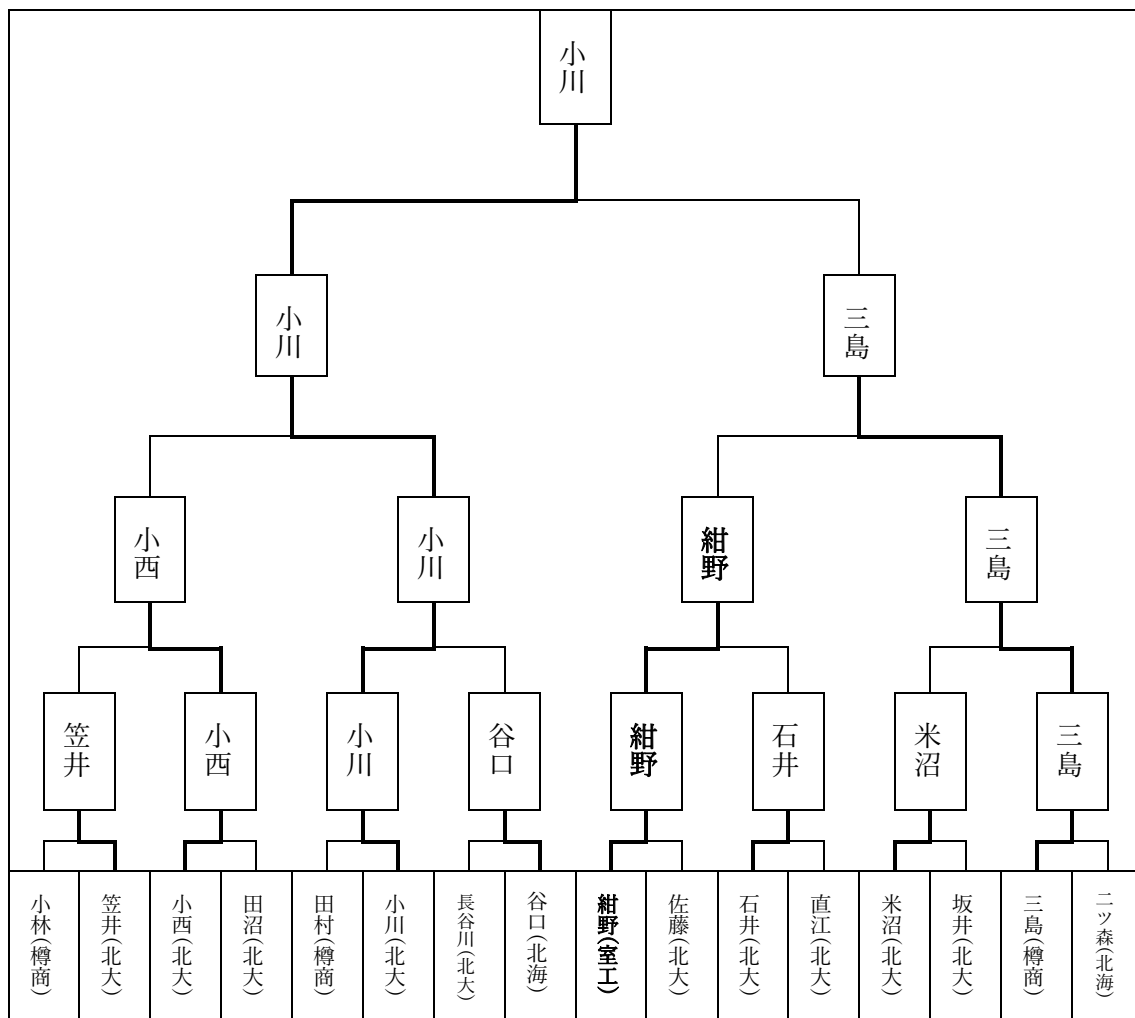
準優勝：小樽商科大学

第3位：北海学園大学

優勝の北海道大学は9月に行われるトリプルアイズ杯争奪大学将棋大会の、準優勝の小樽商科大学は8月に行われる東日本大会の出場権をそれぞれ獲得しました。

2025年度 春季大会団体戦結果

5月5日 於：中央区民センター



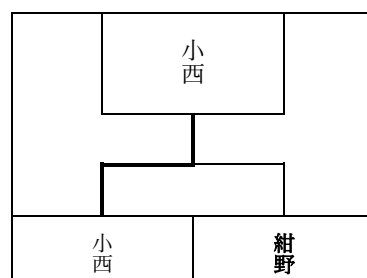
(ベスト 16 から)

3位決定戦

優勝：小川総一郎(北海道大学)

準優勝：三島拓晃(小樽商科大学)

第3位：小西楓稀(北海道大学)



入賞した3名は、6月に行われる学生名人戦の出場権を得ました。

自戰記

まずは今大会の団体戦で先輩方が強豪達を打ち破り全勝者となり 1 年生もまた強豪を倒し、貢献している中で全く貢献できなかったことを反省いたします。

団体戦では 1 勝 3 敗、個人戦ではベスト 32 止まりとなってしまう将棋に対し真剣に向き合えていないことを痛感いたしました。

団体戦から酪農戦と急転直下の北大戦をお送りいたします。

先手：吉田(酪農)

後手：中原(室工大)

▲ 7 六歩	△ 3 四歩	▲ 2 六歩	△ 4 四歩	▲ 4 八銀	△ 4 二銀
▲ 5 八金右	△ 4 三銀	▲ 2 五歩	△ 3 三角	▲ 6 八玉	△ 3 二金
▲ 7 八銀	△ 8 四歩	▲ 6 六歩	△ 6 二銀	▲ 3 六歩	△ 5 二金
▲ 6 七銀	△ 6 四歩	▲ 7 八金	△ 8 五歩	▲ 7 七角	△ 6 三銀
▲ 1 六歩	△ 1 四歩	▲ 4 六歩	△ 7 四銀	▲ 4 七銀	△ 6 五歩
▲ 同 歩	△ 同 銀	▲ 6 六歩	△ 7 四銀	▲ 9 六歩	△ 4 一玉
▲ 3 七桂	△ 8 六歩	▲ 同 角	△ 8 五銀	▲ 7 七角	△ 8 六歩
▲ 2 九飛	△ 8 七歩成	▲ 同 金	△ 8 六歩	▲ 8 八金	△ 9 六銀
▲ 同 香	△ 8 七歩成	▲ 同 金	△ 同飛成	▲ 7 八銀	△ 9 六龍
▲ 8 二歩	△ 8 六歩	▲ 9 七銀	△ 8 五龍	▲ 8 六銀	△ 8 二龍
▲ 8 五歩	△ 7 四歩	▲ 6 五歩	△ 7 五歩	▲ 同 銀	△ 7 三香
▲ 8 四銀	△ 7 六香	▲ 5 五角	△ 7 八香成	▲ 同 玉	△ 6 二龍
▲ 9 一角成	△ 6 五龍	▲ 6 七歩	△ 8 五龍	▲ 8 二歩	△ 4 五歩
▲ 7 七歩	△ 4 六歩	▲ 同 銀	△ 7 六歩	▲ 4 四歩	△ 5 四銀
▲ 2 四歩	△ 3 八金	▲ 2 七飛	△ 8 四龍	▲ 8 一歩成	△ 6 九銀
▲ 同 玉	△ 8 九龍	▲ 6 八玉	△ 4 四角	▲ 6 六桂	△ 8 八銀
▲ 7 六歩	△ 7 九龍	まで 98 手で後手の勝ち			

【第12手△3二金まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金	王				桂	香	一
	飛					金				二
歩	歩	歩	歩	歩	銀	角	歩	歩	歩	三
					歩	歩				四
								歩		五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩			歩	七
	角		玉	金	銀			飛		八
香	桂	銀	金					桂	香	九

最初は酪農の吉田さんとの対局です。振り飛車は指せませんが振り飛車偽装をすることで玉の位置を決めさせ(11手目)、結果的に右玉を封じることができました。それに対してこちらは玉を保留できており相雁木になったときに柔軟に対応できる形です。去年の秋季大会の個人戦では形を決めすぎて負けたため含みを持たせます。

【第27手▲4六歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
な	香	桂			玉			桂	香	一
い		飛			金		金			二
中	歩		歩	銀	歩	銀	角	歩		三
口				歩		歩	歩		歩	四
口		歩						歩		五
			歩	歩		歩	歩		歩	六
	歩	歩	角	銀	歩					七
			金	玉	金	銀		飛		八
	香	桂						桂	香	九
										吉田
										なし

【第37手▲3七桂まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	香	桂				玉		桂	香	一
原		飛			金		金			二
中	歩		歩		歩	銀	角	歩		三
口			銀			歩	歩		歩	四
		歩						歩		五
	歩		歩	歩		歩	歩		歩	六
		歩	角	銀	歩	銀	桂			七
			金	玉	金			飛		八
	香	桂							香	九

その後、無難に駒組をした局面がこちら(左図)です。お相手は急戦かと思いきや▲4六歩(27手目)、これで持久戦なのが分かったのでこちらからは△7四銀型の棒銀で仕掛けに行くことに。この鎖鎌チックな仕掛けは持久戦偽装ができるのでまあまあ刺さる印象。何だか偽装ばかりの嘘つき序盤戦で、ペットが飼い主に似るように将棋も飼い主に似るようです。

そのままだと仕掛けられないので六筋で一步交換して攻めの幅を広げます(右図)。

この戦法は6四歩を突いて急戦されないという油断を誘い、颯爽と仕掛けられる楽しい戦法となっておりますゆえ、気分たまにやります。

【第38手△8六歩まで】										【第52手△8七同飛成まで】									
9 8 7 6 5 4 3 2 1										9 8 7 6 5 4 3 2 1									
香	桂				王		桂	香	一	香	桂				王		桂	香	一
	飛			金		金			二					金		金			二
歩		歩		歩	銀	銀	歩		三	歩		歩		歩	銀	銀	歩		三
		銀			歩	歩		歩	四					歩	歩			歩	四
							歩		五								歩		五
歩	歩	歩	歩		歩	歩		歩	六	香		歩	歩		歩	歩		歩	六
	歩	角	銀	歩	銀	桂			七		銀	角	歩	銀	桂				七
		金	玉	金			飛		八				玉	金					八
香	桂							香	九		桂						飛	香	九

仕掛けの基本は突き捨てから。△8六歩に対して▲同歩であれば△8五歩と継ぎ歩をし、継ぎ歩に対して▲同歩なら△同銀で棒銀炸裂、無視するようなら△8六歩、▲8八歩で罠にハマってくれなかったと悲しみましょう。

本譜では△8六歩(38手目)に対して▲同角で△8五銀と出ることができました。
結果 52 手目に龍を成りこめて優勢。ここからは逆転されずに勝ち切ることができました。

先手：小川(北大)

後手：中原(室工大)

▲7六歩	△3四歩	▲6六歩	△1四歩	▲1六歩	△3二銀
▲7八銀	△4四歩	▲6七銀	△4三銀	▲7七角	△3三角
▲8八飛	△2二飛	▲8六歩	△2四歩	▲8五歩	△8二銀
▲4八玉	△2五歩	▲3八玉	△7二金	▲2八銀	△6二玉
▲5八金左	△2六歩	▲同 歩	△同 飛	▲2七歩	△2五飛
▲9六歩	△7四歩	▲8四歩	△同 歩	▲同 飛	△8三歩
▲8八飛	△5四銀	▲1七銀	△5二金	▲2六銀	△2二飛
▲8六角	△4五歩	▲7七桂	△5五銀	▲6八飛	△4六歩
▲同 歩	△同 銀	▲4七歩	△3五銀	▲同 銀	△同 歩
▲2六銀	△3六歩	▲同 歩	△5五角	▲3七桂	△1五歩
▲同 歩	△2五歩	▲3五銀	△1八歩	▲5六銀	△7三角
▲6五桂	△6四角	▲同 角	△同 歩	▲5五角	△3三角
▲5三桂成	△同 金	▲4五桂	△5五角	▲5三桂成	△同 玉
▲5五銀	△1九歩成	▲3一角	△4二飛	▲4四銀右	△6二玉
▲4二角成	△7一銀	▲5二飛	まで 87 手で先手の勝ち		

【第25手▲5八金左まで】										【第46手△5五銀まで】										
な し 原 中 口	9	8	7	6	5	4	3	2	1	一 二 三 四 五 六 七 八 九	9	8	7	6	5	4	3	2	1	一 二 三 四 五 六 七 八 九
	香	桂				金		桂	香		香	桂						桂	香	
				銀	玉			飛					銀	玉	金			飛		
	歩	歩	歩	歩	歩	銀	角		歩		歩	歩		歩	歩		角	歩		
						歩	歩	歩									歩		歩	
		歩						歩												
			歩	歩					歩									銀	歩	
	歩		角	銀	歩	歩	歩	歩						桂	銀	歩	歩	歩		
		飛			金		玉	銀					飛			金		玉		
	香	桂				金		桂	香		▲ 小川 なし	香					金		桂	

私は高校で将棋を知ってからずっと居飛車を指し、大会で振ったことは一度もありませんでした。最近是对振りの勝率があまり芳しくなく「振り飛車党、居飛車党より縦の将棋弱い説」を提唱し、試しに部室で三浦先輩に相振りをしてみると優勢になれたので大会で使うことを決行。

さて戦型は相向かい飛車、あまり見たことのない相振りとなりました。見たことがないのは相振り経験が足りないせいかもしれませんが。

△5 五銀(46 手目)、相振り経験値の足りなさや経験のない将棋を指しこなす力のなさがよくわかる手です。無難に4 四角としてからゆっくり囲いを発展していけばよかったです。

【第52手△3五銀まで】										【第55手▲2六銀まで】									
9	8	7	6	5	4	3	2	1		9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂						桂	香	一	香	桂						桂	香	一
	銀	金	玉	金			飛		二		銀	金	玉	金			飛		二
歩	歩		歩	歩		角			三	歩	歩		歩	歩		角			三
		歩				歩		歩	四			歩						歩	四
						銀			五							歩			五
歩	角	歩	歩				銀	歩	六	歩	角	歩	歩			銀	歩		六
		桂	銀	歩	歩	歩	歩		七			桂	銀	歩	歩	歩	歩		七
			飛	金		玉			八				飛	金		玉			八
香				金		桂	香		九	香				金		桂	香		九
二歩 原中口										二歩 銀 原中口									
										▲小川 歩									

中原は積極的に銀を繰り出し、早くも総攻撃の姿勢だ(左図)。銀交換からの▲2 六銀、これは攻めをなくそうという手堅い手です。ここから△3 六歩、▲同歩、△5 五角としてから何とかなるであろうと楽観的に見ていました。しかしこの日の私は考えるということあまりしてなく、できあがった局面が次のページです。

悪手次の一手

【第71手 黒 5 五角まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	香	桂						桂	香	一
		銀	金	王	歩			飛		二
歩	歩			歩						三
		歩	歩							四
			桂	角		銀	歩	歩		五
歩		歩	歩	銀		歩				六
				歩	歩	桂	歩			七
			飛	金		玉		歩		八
香					金			香		九

わたしはここで大悪手を指してしまいました。私が指した悪手は何でしょうか。

①6 三金左 ②2 四飛 ③3 三角 ④1 九歩成

①は▲5 五角に対して飛車を守らずに歩を守る金上がり。
やはり将棋は飛車より玉！

②は 3 五の銀に気がつかずに飛車を上がる手。
8 手も前に動いた銀なんて覚えていない。

③は狭いところに角を打ち込む手。角には角！

④は①と同じように飛車を守らずに攻める強気な手。
と金の遅早！

【正解】 ③3 三角

【第73手 ▲5 三桂成まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	香	桂						桂	香	一
原		銀	金	王	金			飛		二
中	歩	歩			圭		馬			三
口			歩	歩						四
					角		銀	歩	歩	五
	歩		歩	歩	銀		歩			六
					歩	歩	桂	歩		七
				飛	金		玉		歩	八
	香					金			香	九

▲小川 歩四

手拍子で打った△3 三角には一目▲4 四銀で悪いと思っていましたがここでは▲5 三桂成という大技が決まります。玉と金どっちで取っても▲4 五桂とふんどしの桂。

以下小川さんが完封を目指す展開、中原負け。

先手：金澤(室工大)

後手：平川(北大)

今回は、大学二年生になって二度目の大会となった。(一年春季の時は将棋部未加入)初めて北大生と指したので、是非とも見てもらいたい。

▲7六歩	△8四歩	▲6八飛	△8五歩	▲7七角	△3四歩
▲6六歩	△6二銀	▲7八銀	△4二玉	▲4八玉	△5二金右
▲3八銀	△5四歩	▲1六歩	△1四歩	▲3九玉	△3二玉
▲2八玉	△7四歩	▲5八金左	△4四角	▲4六歩	△2二銀
▲3六歩	△3三桂	▲4七金	△2一玉	▲3七桂	△3一金
▲6七銀	△4二金寄	▲5六銀	△7三桂	▲4五歩	△5三角
▲8八飛	△9四歩	▲6五歩	△3二金寄	▲9六歩	△5一銀
▲6六角	△6四歩	▲同 歩	△同 角	▲6五歩	△5三角
▲7五歩	△8四飛	▲7八飛	△7五歩	▲同 角	△7四飛
▲7六歩	△7五飛	▲同 歩	△6六角	▲7四歩	△5五歩
▲6七銀	△9九角成	▲7三步成	△8九馬	▲6三と	△7八馬
▲同 銀	△9七角成	▲7一飛	△7九飛	▲5一飛成	△7八飛成
▲5二と	△1五歩	▲4一と	△1六歩	▲3一と	△同 馬
▲1六香	△同 香	▲1四桂	△1九銀	▲3九玉	△1八香成
▲2九金	△同成香	▲同 玉	△2八金		

まで88手をもって先手金澤投了

【第49手 7五歩まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇				飛		王	王	皇	一
▲		飛					王	飛		二
▲			桂		馬	歩	桂	歩		三
▲	歩		歩		歩		歩		歩	四
▲		歩	歩	歩		歩				五
▲	歩			角	銀		歩		歩	六
▲		歩			歩	金	桂	歩		七
▲		飛					銀	玉		八
▲	香	桂				金			香	九

▲金澤 なし

今回の棋譜の見せ場は、49手目7五歩だ。相手がしびれを切らし、6筋の歩を交換してきた直後にこちら側から仕掛けた一手。同歩には7筋に飛車を回って、その後7五角と出る狙い。敵陣は金駒が低いため、相手は受けにくそうに8四飛と上がるが構わず7八飛。飛車角を捌きながら攻めることができて気持ちよく指せていた。

【第71手 5一飛成まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	皇				龍		王	王	皇	一
▲							王	飛		二
▲				と		歩	桂	歩		三
▲	歩						歩		歩	四
▲		歩		歩	歩					五
▲	歩						歩		歩	六
▲	馬	歩			歩	金	桂	歩		七
▲			銀				銀	玉		八
▲			飛			金			香	九

▲金澤 角銀桂

次に今回の反省点となる手だ。他にも反省すべき手は多々あるが、後から見返していて特によろしくなかった手を振り返る。5一飛成は安易な手だった。互いに銀を取り合うかど

うか、決定権が私にある状況だったので、はやとちりしてその権利を投げ捨てる必要がなかった。相手の7八飛成は玉に間接的に当たっており、感覚的に優勢を互角またはそれ以下まで下げてしまった気がする。代えて2六桂と打つなど銀を取り込む前に相手の囲いを狙った手が指せていれば勝ち星を狙えていたと思う。

なお、この棋譜は春季団体戦の対北大にて私が大將を務めた時のものである。昨年度秋季大会時の部誌に載せた自戦記よりもいくらかましな将棋は指せたつもりだ。次回秋季大会では何とか勝ち星を挙げて勝利したものを部誌に載せたいものだ。

団体戦は 6 勝 0 敗、個人戦は初戦(2 回戦)敗退という結果でした。

戦績(敬称略)

団体戦

1 回戦：VS 酪農学園大学・星野 ○(四間飛車) 室工 4-1 酪農
2 回戦：VS 旭川医科大学・山下福 ○(中飛車) 室工 5-0 旭医
3 回戦：VS 釧路公立大学・西村 ○(三間飛車) 室工 3-2 釧路
5 回戦：VS 北海道大学・青山 ○(向かい飛車) 室工 2-3 北大
6 回戦：VS 小樽商科大学・平松 ○(相振り飛車) 室工 2-3 樽商
7 回戦：VS 北海学園大学・ニツ森 ○(三間飛車) 室工 3-2 北海
室工大：4 位(4 勝 2 敗)

今大会は、4 年生が出るところは全て勝つという無謀な計算のもとでオーダーが組まれました。2 人揃って全勝という結果を残し、なんとか務めは果たせたと思います。1 年生の活躍で北海学園に勝てたのは嬉しい誤算でした。大会規定で 4 位となりましたが、かなり上出来だったのではないのでしょうか。

個人戦

2 回戦：田沼(北大) ●(相振り飛車)

個人的なことではありますが、3 年前のルーキーリーグ、2 年前の新人戦と道新杯、そして昨年の秋季大会で優勝していました。また、昨年の春季大会は 3 位での学生名人戦出場でしたので、今年は何としても優勝したいと思っていました。しかし、北大の田沼さんの前にあえなく散り、全棋戦制覇の夢は露と消えました。その対局の棋譜をご紹介します。

先手：三浦(室工大)

後手：田沼(北大)

▲7 六歩	△3 四歩	▲7 五歩	△8 八角成	▲同 飛	△4 五角
▲7 六角	△2 七角成	▲4 三角成	△3 二銀	▲3 四馬	△5 四馬
▲5 六馬	△4 四馬	▲3 八銀	△3 三桂	▲4 八玉	△2 四歩
▲3 九玉	△2 五歩	▲2 七歩	△4 三銀	▲7 八金	△2 二飛
(第 1 図)					
▲6 八銀	△7 二金	▲7 七銀	△2 六歩	▲同 歩	△同 飛
▲2 七歩	△2 五飛	▲6 六銀	△6 二銀	▲8 六歩	△6 四歩

余談ですが、私は常々「強い振り飛車党は嫌いだ」と口癖のように言っています。田沼さんはまさにそれに該当する人物です。そのうえ北大医学部に籍を置く秀才で、男前で、人当たりも良くて・・・。

何が言いたいのかわからなくなって参りましたが、要するに絶対に負けたくない相手だった、ということです。

飛車で取ったからには△4五角と打たれるのは仕方ありません。▲7六角と応戦して、以下△4二玉▲3八銀△5四角▲7六飛△7六角▲同飛△2八角▲5五角・・・という進行が一例です。尤も、私は上記の手順に突入しそうになった場合は、▲3八銀ではなく、穏便に▲3八金と上がるつもりでいました。ところがどっこい、田沼さんは▲7六角に対して△2七角成と切り込んで来られました。これには▲4三角成の一手です。

「角を成り合う展開は、馬の働きに差があるから先手よし」

私が読んだ本には確かにそう書いてありました。よってこの手は考えもしなかったのです。互いに馬を5筋に引き、力戦調の相振り飛車になりましたが、いざ駒組みに移てみると、後手の方が左銀の活用がスムーズです。また、こちらは飛車を取られても良いように気を遣いながらの駒組みを強いられ、全体的に立ち遅れ気味です。そうこうするうちに銀を後退させられ、囲いの急所を狙われ、歩得どころでは割に合わない形勢になってしまいました。23手目▲7八金から27手目▲7七銀の構想に問題があり、手数がかかる割に効果が薄かったようです。後手の馬の利きを緩和するのは▲6六歩程度で済ませて、飛車先を伸ばす手を急いだ方がこちらにも主張があつて良かったように思います。

とはいえ、悲観するほどの決定的な差をつけられたわけではなかったのも、辛抱を重ね、馬を責め、少しずつこちらの駒が機能する展開を目指せば、まだ難しかったでしょう。何をヤケになったのか、57手目▲4六歩から相手の攻め駒を呼び込んでまともに猛攻を食らっています。これでは勝負あったでしょう。以下華麗に寄せられて終わり・・・かと思いきや、こちらにもチャンスが訪れます。

甚大な被害を出しながらも、後手の馬を7九の地点に行かせたことで猶予が生まれました。とはいえ大して厳しい手があるわけでもありません。99手目▲8二歩に手抜きで△2六歩などと攻め合われたら、ひとたまりもなかったことでしょう。しかし、△8二同金と取ったことで▲7一銀が入りました。そこから数手、104手目△7四桂への応手が問題でした。▲7四同歩は、銀で取り返されると馬に当たるため断念し、▲7六飛と躲したのですが、これが逸機ひろし。△7四同銀には構わず▲5五桂と打ちます。△8五銀と取ると▲4三金△6二玉▲8五飛で寄せも見えてきます。この千載一遇のチャンスを逃してはいけませんでした。数手後に▲5五桂と打ちましたが、後手の銀が6三にいるため効果は半減です。その後はこれといった見せ場もなく、押し切られました。

局後の田沼さんの弁は「三浦には序盤から大乱戦にすれば勝てると思った」というものでした。完全に相手の思惑通りの展開になってしまい、悔しい限りです。

秋季大会は大学生活最後の大会となります。連覇で有終の美を飾りたいと思います。

団体戦 対 北海学園大学 右四間飛車対四間飛車

先手：学園 加藤

後手：室工 中村

▲7六歩 △3四歩 ▲2六歩 △4四歩 ▲4八銀 △4二飛 ▲4六歩 △6二玉
 ▲4七銀 △3二銀 ▲5六銀 △7二玉 ▲4八飛 △4三銀 ▲6八玉 △9四歩
 ▲7八玉 △8二玉 ▲6八銀 △7二銀 ▲1六歩 △5二金左 ▲7九金 △5四歩
 ▲5九金 △6四歩 ▲6六角 △6三金 ▲7七桂 △7四歩 ▲9六歩 △1四歩
 ▲6九金右 △3五歩 ▲8九玉 △3二飛 ▲4五歩 △5五歩 ▲同角 △5四金
 ▲6六角 △3六歩 ▲同歩 △同飛 ▲3七歩打 △2六飛 ▲2八歩打 △3三角
 ▲7八金右 △6三銀 ▲4四歩 △同銀 ▲5五銀 △4七歩打 ▲同飛 △4六歩打
 ▲同飛 △同飛 ▲同銀 △4九飛打 ▲4五歩打 △5三銀 ▲3一飛打 △7二金
 ▲3三角成 △同桂 ▲3五銀 △2九飛成 ▲4四銀 △4五桂 ▲5三銀成 △同金
 ▲6一角打 △7一銀打 ▲1一飛成 △8四桂打 ▲8六香打 △6二角打 ▲8四香 △同歩
 ▲5五桂打 △5四銀 ▲7五歩 △5五銀 ▲7四歩 △7六歩打 ▲7三銀打 △同桂
 ▲同歩成 △同玉 ▲6五桂打 △同歩 ▲同桂 △6四玉 ▲5三桂成 △同角
 ▲5二角成 △8五桂打 ▲7四金打 △5四玉 ▲1四龍 △4四桂打 ▲5三馬 △同玉
 ▲2三龍 △4三歩打 ▲3一角打 △4二香打 ▲3三龍 △5一銀打 ▲4二角成 △同銀
 ▲5四香打 △同玉 ▲4二龍 △7七香打 ▲8六銀打 △7八香成 ▲同玉 △7七金打
 ▲8九玉 △7八角打 まで、122 手で後手の勝ち

図は 50 手目△6 三銀まで

指しているときは必死でしたが、棋譜を振り返ると疑問手が目立ちます。不本意な局面を自ら選んでしまう傾向があります(右図)。この局面か定かではないのですが、対局後に△3 八歩という手を知りました。50 手目を代えて△3 八歩▲同飛△4 六飛▲4 四歩△同銀▲4 七歩△2 六飛と進めれば、右四間の攻めは受け切れた格好、かつ



2 筋で主導権を握れる 手順になるので、そちらのほうが好ましいです。相手の玉形はエルモから組み替えた珍しい陣形で、感想戦では端が起点になると対局相手に教えていただきました。反省点として、この将棋では 53 手目△5 五銀を▲同銀と取れたはずでした。▲4 一飛車成が 6 一金と 2 一桂の両取りになるのを怖がって形勢を損ねてしまったのですが、5 二銀打とすれば駒得を拡大でき、優勢でした。最後に、78 手目△6 二角のような手は二度と指さないように精進します。拙文終わり。

今大会は団体戦・個人戦の両部門に出場。団体戦では 3 試合に出場し 1 勝 2 敗、個人戦では 1 回戦で敗退という結果に終わった。

【団体戦】

2 回戦 vs 旭川医科大学（対 小澤戦）○

右四間飛車対四間飛車。序盤から積極的に仕掛け、リードを奪う展開となったが、寄せに入ったところで誤算。あやしくなった局面を粘り強くまとめ、どうにか勝利を拾った。勝ちながらも内容では課題の残る一局。終盤力の強化が急務といえる。

3 回戦 vs 釧路大学（対 阿部戦）●

直近で勉強を始めたばかりの四間飛車での相振り飛車だったが、構想がまとまらず、力の差を感じさせる完敗となった。研究の浅さが露呈した一局で、終始受けに回る苦しい展開だった。

6 回戦 vs 小樽商科大学（対 小林戦）●

長らく封印していた“十八番”のつくつくぼうし戦法を投入。序中盤は互角で進み、難解なねじり合いに持ち込んだが、中盤で銀をタダで献上する痛恨のミス。そこから一気に形勢を損ない、反撃の隙を見せられないまま寄せ切られてしまった。一手の重みを痛感させられる一局だった。

【個人戦】

1 回戦 vs 小西戦（三間飛車対向かい飛車）●

全くいいところなく完敗。序盤から差をつけられ、相手玉が堅い中、こちらだけ寄せられてしまう展開。持ち時間の使い方にも差があり、時間も実力も大差を感じる内容となった。もっと基礎を磨き、全体のバランスを底上げしたい。

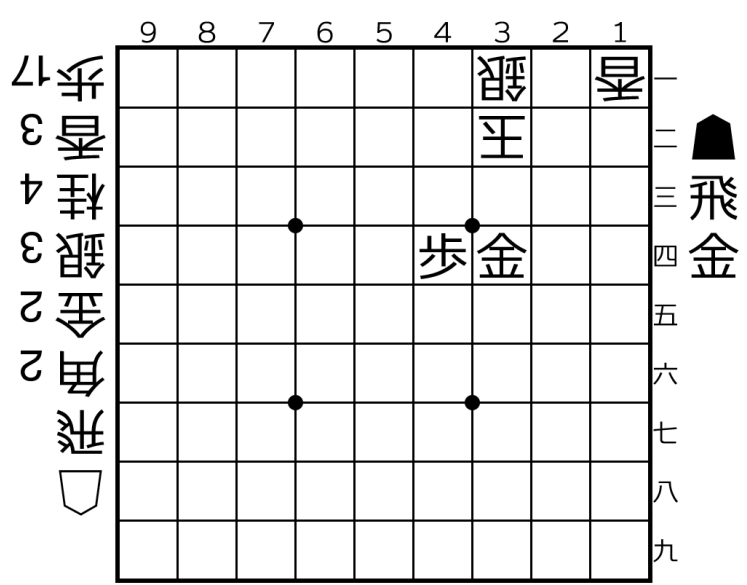
総括

団体戦 1 勝 2 敗、個人戦初戦敗退という結果に終わった今大会。

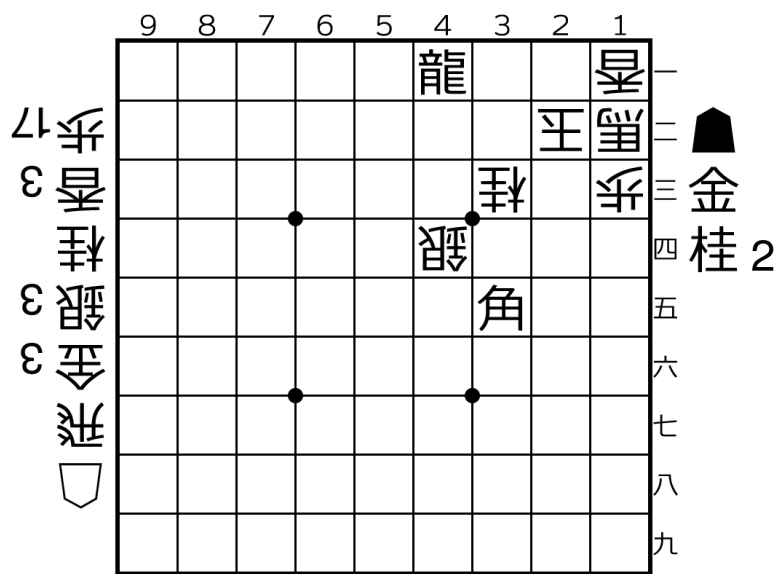
今大会は、局面の優劣を超えたところで、自分らしい一手、自分だけの将棋とは何かをあらためて問い直す機会となった。

詰将棋

第 1 問



第 2 問



コラム

記：安田

袖飛車戦法

今年度の春季大会では、三浦・紺野の4年生2人が老害の底力を見せ、団体戦で全勝賞を獲得しました。とりわけ紺野は、翌日の個人戦でもベスト4に進出する奮闘ぶりで、大会を大いに盛り上げました。その大活躍の原動力となったのが袖飛車戦法です。

ところが、袖飛車と言われても筆者はピンときません。飛車が右から3番目の筋に行くことくらいは知っていますが、逆に言うとその程度の知識です。角筋は通りますし、銀や桂馬も利かせやすいから、駒組み次第では戦力を集中させやすい戦法なのであろう、ということとは想像が付きまします。でもその程度です。百聞は一見に如かず、とはよく言ったものです。紺野の実戦譜から、色々と考察してみたいと思います。まずは団体戦より、北大の1年生の石井氏との対局です。

先手：石井(北大)

後手：紺野(室工大)

▲2六歩	△3二金	▲2五歩	△7二飛	▲7八金	△7四歩
▲6八銀	△7五歩	▲6六歩	△6二銀	▲6七銀	△7四飛
▲5六歩	△7三桂	▲9六歩	△9四歩	▲4八銀	△4二銀
▲5七銀	△4一玉	▲1六歩	△3四歩	▲3六歩	△1四歩
▲5八金	△5一金	▲6九玉	△6四歩	▲2四歩	△同 歩
▲同 飛	△2三歩	▲2五飛	△6三銀	▲3五歩	△同 歩
▲3四歩	△6五歩(第1図)				
▲3五飛	△6六歩	▲同銀直	△6五歩	▲5五銀	△5四歩
▲6四歩	△5二銀	▲5四銀	△6四飛	▲4五銀	△6六歩
▲6八歩	△4四歩	▲3六銀	△6五飛	▲5五歩	△1三角
▲2五飛	△3五歩	▲2七銀	△5五飛	▲7六歩	△4三銀直
▲5六歩	△6五飛	▲2六飛	△3四銀	▲6六銀	△7六歩
(第2図)					
▲6七金左	△3六歩	▲同 銀	△3五銀	▲同 銀	△同 飛
▲3六歩	△8五飛	▲7八玉	△5七歩	▲同金寄	△6五歩
▲8六銀	△6六歩	▲8五銀	△同 桂	▲7一飛	△7七銀
▲同 桂	△同歩成	▲同 角	△同桂成	▲同飛成	△6五桂
▲7一龍	△7七銀	▲6九玉	△5七桂不成	▲同 金	△同角成
▲7七龍	△5八金	▲7八玉	△6八金	▲8八玉	△6七歩成
▲7一龍	△7七銀	▲9八玉	△9七金	▲同 玉	△7九角

まで110手で後手の勝ち

Figure 1: A Go board position illustrating a variation of the 'Three Stones' (Sanren) problem. The board is numbered 1 through 9 from right to left and 1 through 9 from top to bottom. White stones are numbered 1 through 9. Black stones are numbered 10 through 18. The position shows a complex sequence of captures and recaptures, with the final state being a Go no Go position (a position where no stone can be immediately captured). The diagram is labeled 'Figure 1' and 'Figure 1-1'.

Figure 1.10: A chess position with a black king on e8, a white king on e1, and a white queen on d1. The position is a standard chessboard with files a-h and ranks 1-8. The black king is on e8, the white king is on e1, and the white queen is on d1. The position is a standard chessboard with files a-h and ranks 1-8.

さて、いささか奇異に映る序盤ですが、紺野にとっては平常運転です。石田流と中原囲い(?)のミックスとでも言えば良いでしょうか。対する石井氏は雁木に構え、飛車先の歩を交換して五段目に引きました。後手の攻めをけん制しつつ、▲3四歩と垂らして拠点作りを狙います。そこで△6五歩が機敏な突き出しです。▲6五同歩では、垂らしたばかりの3四歩を飛車で払われてしまいます。△6六歩に対して、▲6六同銀直は形が崩れて不本意でしょうが致し方ありません。右の銀で取ると、本譜と同様に進んだ場合、△6六歩で銀が詰みますが、さりとて銀を5七に引いても拠点が残ります。銀をソッポに追いや

り、飛車の働きに差をつけ、後手が指しやすい形勢となりました。

続いて、翌日行われた個人戦準々決勝の将棋を取り上げます。なんと、対戦相手はまたしても石井氏です。

後手：石井

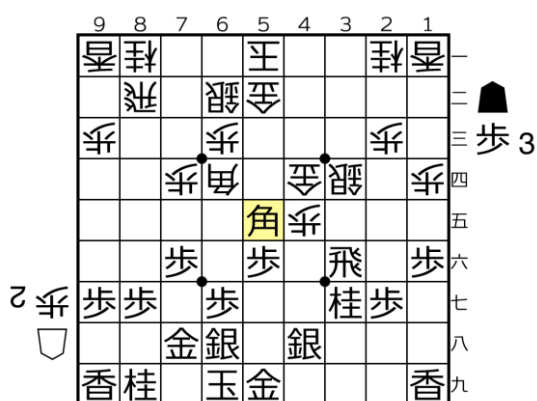
▲ 3 六步	△ 8 四步	▲ 3 八飛	△ 8 五步	▲ 7 八金	△ 3 二金
▲ 3 五步	△ 4 二銀	▲ 3 六飛	△ 4 四步	▲ 4 八銀	△ 4 三銀
▲ 1 六步	△ 1 四步	▲ 6 八銀	△ 6 二銀	▲ 6 九玉	△ 5 四步
▲ 5 九金	△ 5 二金	▲ 3 七桂	△ 7 四步	▲ 7 六步	△ 3 一角
▲ 4 六步	△ 8 六步	▲ 同 步	△ 同 角	▲ 8 七步	△ 6 四角
▲ 4 五步	△ 同 步	▲ 3 四步	△ 5 五步	▲ 3 三步成	△ 同 金

▲5六歩 △3五歩 ▲同 飛 △3四銀 ▲3六飛 △4四金
 ▲5五角

(第1図)

△3五歩 ▲6四角 △同 歩 ▲2六飛 △3三角 ▲3二角
 △1三桂 ▲2三角成 △同 銀 ▲同飛成 △4二金 ▲3四歩
 △同 金 ▲同 龍 △5二角 ▲3三龍 △同 金 ▲4五桂
 △2五角 ▲7九玉 △4三金 ▲4四歩 △4二金 ▲4三銀
 △4一歩 ▲4二銀成 △同 歩 ▲4三歩成 △同 角 ▲5三金
 △5二歩 ▲4二金(第2図)
 △同 玉 ▲2四角 △3一玉 ▲4二金 △2一玉 ▲4三金
 △2二飛 ▲3三桂成 △2四飛 ▲3二金 △1二玉 ▲3四角
 △同 飛 ▲2二金 まで89手で先手の勝ち

第1図



第2図



前局とは異なり、本局は紺野が先手です。とはいえ駒組みが大きく変わるわけでもなさそうです。やはり浮き飛車から桂を跳ね、玉を低く囲います。角で8筋の歩を取り、6四に引いたのが石井氏の工夫です。角を利かせて仕掛けをけん制する狙いでしょう。しかし、▲4五歩には△5五歩の方が安全だったように思います。金銀が上ずったところで、▲5五角の強手が炸裂しました。角交換になると後手はかなり苦労しそうですが、金で取るのもなんとも味が悪い。実際問題、▲3四飛が飛車成りの先手となり、△3三歩と受けても▲6四飛△同歩▲5五歩で收拾困難です。

強引に飛車を成り込み、駒を回収し、桂馬を跳ねて寄せにかかります。後手も自陣に角を投入して粘りますが、▲4二金から▲2四角が鮮やかな決め手でした。紺野の快勝譜、いえ、会心譜と言って差し支えないでしょう(どちらが凄いのかは存じません)。

第1譜 28 手目



第2譜 25 手目

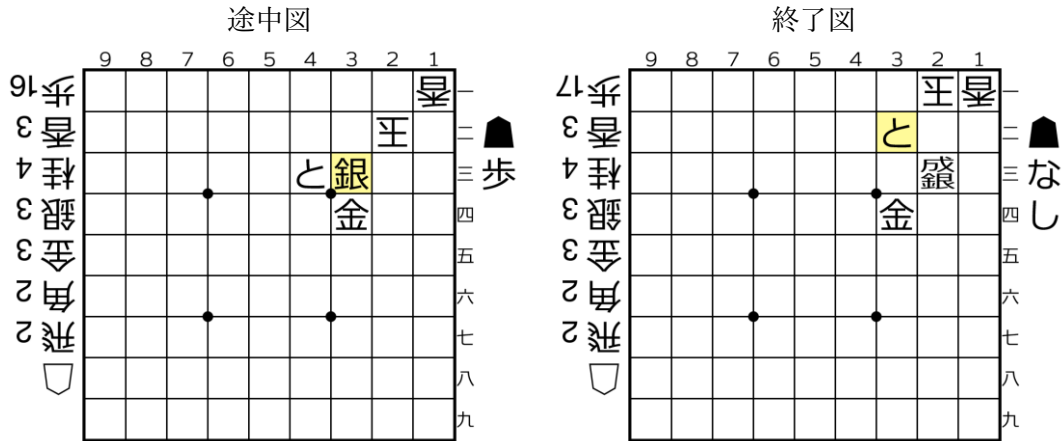


先後の違いなどもありますが、この局面が袖飛車の基本図と言えそうです。石田流のような攻撃陣と低く堅い囲いの相性が良く、場合によっては飛車を切るなどの手段も採れます。角筋を生かして▲4五歩(6五歩)と突くのが基本的な狙いですが、それだけでは決まりません。5筋も絡めることで歩の叩きや桂跳ねが可能になり、攻めの幅が広がります。他の対局では、端から手を作ったり、右銀を繰り出して攻めたりといったバリエーションも見られました。この辺りは相手の陣形との兼ね合いもあるのでしょう。ただ、右銀が出て行くと囲いが薄くなるので、注意が必要です。ちなみに石井氏は高校時代から名の通った強豪で、この大会でも北大の団体戦優勝に貢献しています。そもそも雁木が袖飛車に相性が悪いという可能性もありますが、いずれにせよ、格上の相手でもそう簡単には有効な対策をひねり出せないということからも、袖飛車の優秀性が伺えます。

紺野の活躍に触発されたのか、大会後の工大将棋部では若手がこぞって袖飛車を指し始めるという怪現象が起きました(現在は沈静化したもようです)。一部の部員の間では指定局面なるものまで生まれたようです。怪現象とは言いましたが、駒組みと狙いがわかりやすく、自分のペースで戦うことができ、あまりやる人がいないというのは非常に大きな利点です。第二、第三の袖飛車使いが生まれることは別に祈っていませんが、各々が自分に合った戦法を身に付け、勝率を上げてくれることを、何より、将棋を楽しんでくれることと学業に支障を来さないことは切に祈っています。

詰将棋解答

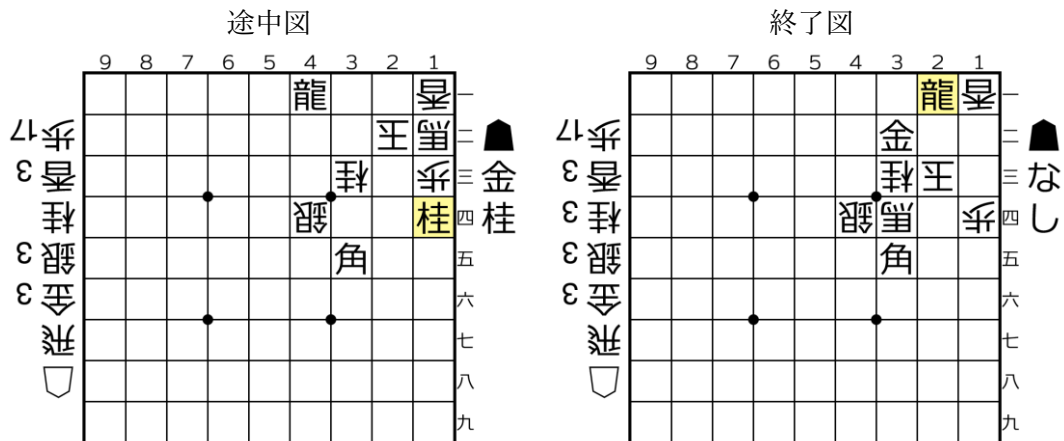
第1問



▲4 三步成△2 一玉▲2 三飛△2 二歩▲3 二金△1 二玉▲2 二金△同銀▲同飛成△同玉
▲3 三銀△1 二玉▲1 三步△同玉▲2 四銀成△1 二玉▲2 三成銀△2 一玉▲3 二金
まで19手詰め

4手目△2 二歩は限定合で、他の駒だと11手目▲3 三銀のところで▲2 三銀△1 三玉と進めて、取った駒を打てば詰め。5手目▲同飛成は手順前後で、△2 二同銀▲同金△1 三玉で不詰め。また、6手目△3 二同銀は▲3 二同と△同玉▲4 三飛成以下早詰め。

第2問



▲1 四桂△同歩▲3 四桂△同馬▲3 二金△2 三玉▲2 一龍まで7手詰め

初手▲1 四桂が大事なところで、▲3 四桂と手順前後すると、以下△3 四同馬▲1 四桂△2 三玉▲2 一龍△1 四玉で詰まない。

編集後記

編集を担当した三浦です。またしても刊行が10月となってしまいました。もはや春季でなければ前期でもありません。これはひとえに私の力不足に因るもので、大変申し訳なく思っております。この場を借りてお詫び申し上げます。

また、OBの方々による暖かいご支援には将棋部一同、感謝しております。毎年毎年「これからが楽しみ」と言っているような気がします、部内の序列上位に食い込む1年生も何名かおり、ここ数年では一番楽しみが多いと思います。本誌でも、これが唯一の心の拠り所とも言わんばかりに再三触れてまいりましたが、1年生の活躍で北海学園大学に勝てたというのは非常に明るい材料です。あとは後輩たちが学業と棋力向上に邁進し、室工大将棋部におよそ四十年ぶりの黄金期をもたらしてくれることを祈るばかりです。

さて、部誌の編集を担当するたびに刊行の遅れをお詫びしているような気がしております。ここまでくると、いささか投げやりな気分と言い訳の一つや二つも言いたくなってくるところではあります。とはいえ、恨み言のオンパレードになりそうですし、謝罪の辞を述べたその舌の根も乾かぬ内に自己保身に走っては私の世間体（そんなものがあるのかはお気になさらず）も形無しというものです。最後の大会での奮闘の誓いと、後輩たちへの叱咤激励に留めておきます。

部誌に原稿を掲載したい、こう改善した方がよいのではないかという意見や感想等もお待ちしております。室蘭工業大学将棋部 Twitter(<https://x.com/murokousyougibu>)、あるいはホームページのメールアドレス(muroshou774@gmail.com)までご連絡ください。

最後までこの部誌を読んでもくださったことを大変喜ばしく思っております。改めて御礼申し上げます。

発行日：2025年10月31日

発行者：室蘭工業大学将棋部

編集：三浦振一郎